

ちょっと ブレイクしませんか?

大逆転 【1983年 米国】

第 **21** 回

イソップ寓話集に「石を曳き上げた漁師」と題する小話がある。

漁師たちが地曳網を曳いていた。網が重いのでてっきり大量だと思い、小躍りして喜んだが、浜に曳きよせてみると、魚は僅かしか見えず、網の中は石や木ばかりだった。漁師たちの落胆はひととおりではなかったが、正反対のことを予期していただけに、一層この結果に腹がたったのだ。しかし、中に一人の老人がいて言うには、「なあ、皆の衆、腹をたてるのは止めよう。悲しみというものは喜びと姉妹であるようじゃ。わしらも先にあれ程喜んだのだから、悲しみに遭うのは当然だったんじゃ」

若きルイスは商売上手で、ランドルフとモーティマーのデューク兄弟が創設した商品仲買会社の重役をしている。一方、足の不自由な黒人のヴェトナム復員兵が、道ゆく人に小銭をせびっていた。この若者ビリーがクラブの前で、ルイスとぶつかった。ルイスが「泥棒」とわめいたので、ビリーはクラブの中に逃げ込んだ。その様を見ながら、ランドルフは「あの若者は貧しい環境の犠牲者だ。ちゃんとした環境を与えれば、ルイスと同じように会社をうまく経営していこう」と弟にしゃべる。2人は環境が人間にどんな影響を与えるかについて賭けをした。

ビリーはデューク兄弟から「自分たちは私財を投じて、社会的に恵まれぬ人に社会復帰をさせる事業をやっている」と聞かされた。2人は彼に邸宅、銀行口座、年俸8万ドルの職を提供する。一方、クラブでは、ルイスは泥棒の罪でつかまる。婚約者の尽力で釈放されたルイス。そこへ、けばけばしい身なりのどうみても娼婦でしかないオフィーリアが抱きつき、麻薬をねだる。ルイスはオフィーリアからタクシー代を借りる。ビリーは豚肉の取引で数十万ドルを稼ぎ、それから3週間でデューク&デューク社のゴールデン・ボーイとなった。ランドルフの理論の正しさが証明され、モーティマーから賭け金1ドルを受け取る。これをトイレで聞いて真相を知ったビリーは、ルイスの後を追ひ、自殺を図ったルイスを邸宅に連れてきて、デューク兄弟の陰謀を説明した。

ルイス、ビリー、オフィーリアは協力して、復讐を計画。デューク兄弟は、オレンジは大豊作という偽情報を信じて、取引所に乗り込み、買いまくれと指令する。ルイスとビリーも取引所に行き、売り一本槍で押しまくり、値が下がると一転して買いまくり、天井を打つと、今度は売りに転じた。と、そこで農務長官の来年のオレンジ収穫量は平年並みという発表があり、オレンジの株価は大暴落しデューク兄弟は破産し、大富豪から一文無しに転落する羽目に。

盛者必衰の理は、平家物語でも説かれたが、「我々も、好天が続いた後は必ず嵐になる理を弁えて、人生の移ろいやすさを見、いつまでも続く事態に有頂天になってはいけないのだ」ということをこの作品は教えている。構造不況下で、賃金抑制と非正規雇用が遍く進行しているが、大逆転はあるのだろうか。

精神科医・映画評論家
名古屋工業大学名誉教授
岡田クリニック特別嘱託医
かゆ かわ ゆう へい
粥川 裕平

**TRADING
PLACES**